

平成23年度 第1回川崎市教育改革推進協議会（摘録）

日 時 : 平成23年7月13日（水）15:00～17:00

場 所 : 教育文化会館3階 第2会議室

出席者 : 小松委員、田中委員、大下委員、松田委員、山田委員、松本委員、小原委員、
菊池委員、垣地委員、門倉委員

（事務局）金井教育長、平野総務部長、鈴木教育改革推進担当部長、海野教育環境整備推進
室長、高梨職員部長、渡邊学校教育部長、野本生涯学習部長
広瀬企画課長 ほか

欠席者 : 高木委員

傍聴者 : なし

司 会 : 広瀬企画課長

〔配布資料〕

- ・「かわさき教育プラン第3期実行計画」
- ・「かわさき教育プランー重点施策評価シート（第2期実行計画）」
- ・川崎市教育改革推進協議会設置及び運営要綱
- ・川崎市教育改革推進協議会委員名簿
- ・平成23年度川崎市教育改革推進協議会スケジュール

1. 開会

2. 委員自己紹介

3. 教育長あいさつ

（事務局紹介）

4. 報告・説明

「かわさき教育プラン第3期実行計画」について（事務局説明）

〔委員からの意見・感想など〕

（委員）

- ・施策そのものは吟味されていると思った。
気付いた点としては、子どもに対する施策でも、「権利」は出ているが「義務」が出てきていない。もっと表面に出していいのではないか。子どものうちから、国民として、市民としてやらなければならないこと、しなければならないことを教えていかないといけないのではと思う。今後の取組の中で力を入れて欲しい。

（委員）

- ・全体的にはこれまで色々な議論をされてきたと思う。
子どもに問題が出てきたときに、より早く原因にたどりつくことが大事。不登校等の問題

もある。スクールソーシャルワーカーなどの具体事例はわからないが、学校と家庭の間にたつて、より早く原因にたどりつくことができたらいいと思う。そういった視点をもって、取組を進めてほしい。

(委員)

- ・第2期に比べたら重複する部分も含めて整理されてきたと思う。自分の立場からも、重点施策2と6に注目している。青少年指導員も行っているので、重点施策1や5もよく見ていきたい。

5. 協議題

「かわさき教育プラン第2期実行計画」の点検評価について（事務局説明）

[委員からの意見・事務局からの回答]

【重点施策1・2について】

(委員)

- ・重点施策2について、地域教育会議の目的や役割に学校支援に関わる内容がない。地域住民が学校を支援する取組は地域教育会議には入っていないのか？

(事務局)

- ・地域教育会議は学校を含めた地域全体の支援であるので、重点施策6でも生涯学習で培った力を学校に活かす取組を盛り込んでいる。

(委員)

- ・第3期実行計画と照らし合わせると「主な取組」というところでは、地域が学校を支援するという観点が入っていないようだが？学校と地域との関連性がわからない。

(事務局)

- ・本市の学校には「コミュニティ・スクール」や「学校教育推進会議」といった地域住民の方々が学校運営に参加できる制度を導入し、地域と学校が連携した特色ある学校づくりを推進している。

(委員)

- ・制度上や実態としては知っているが、「主な取組内容」に入っていないので気になった。

(座長)

- ・進捗状況を見ると「教育活動の活性化」との表現だけでは、その成果が見えないと思う。学校教育推進会議の活動推進についても学校評価も関係者評価だけではないはず。そこら辺は学校の校長先生としてはどうか？

(委員)

- ・学校教育推進会議はきわめて重要な場。学校評価だけが重要な部分ではなく、地域とのネットワークが作れることが大きい。この前、学校の防災訓練を見ていただいたが、普段どのように学校で活動しているのかを見てもらえてよかった。

(委員)

- ・学校教育推進会議は本校では年2回の開催だが、地域の方に来ていただける機会は、とても重要。

(委員)

- ・学校施設の有効活用については、学校の判断で開放しているものなのか？学校によってはあまり積極的ではない気がしている。

(事務局)

- ・少しずつ開放する学校を拡大しているが、児童生徒の個人情報などの関係や施設設備の問題もあるので、開放できるだけの環境が整ってから開けている。

(委員)

- ・もし事故があった場合に責任をとらされることが嫌だから開けないというわけではないのなら納得できる。

(事務局)

- ・管理者としては安全に使ってもらうことが基本となっているが、ある校長は地域の方が特別教室に来てくださることが嬉しいと話していた。

(教育長)

- ・昨年のタウンミーティングで市長も話していたが、学校の余裕教室を地域に開放していくことも現在検討している。

(座長)

- ・重点施策1についての評価はどうか。

(委員)

- ・学校はここ3・4年で大きく変わった。何かあっても、個別のケースという認識にもなっていなかったのが、今はチームになって取り組んでいる。ただ、さまざまな課題のある子どもが多いため、どうしても人手が足りない。
- ・40名ギリギリのクラスが多く、サポーターやカウンセラーなどが入っていることは、多方向から学校を支援していただいている実感がある。

(委員)

- ・子どもたちの問題が顕在化するのが学校であって、家庭の中の親子関係や地域社会の縦横関係が希薄になっているなど、地域社会の中での育ち方の問題もある。
- ・地域の中の学校を作るというのは、家庭や地域で子どもを育てるということ。地域社会で

の教育力を高めることが大事だと思う。学校支援を考える上で、家庭と地域の連携の具体性を考える必要がある。

【重点施策3・4について】

(委員)

- ・自分の子どもから聞いた話だが日直になると、最近あったことや友だちに紹介したい本などをみんなの前でスピーチするとのことだ。こういった取組はコミュニケーション能力の育成もできて、面白い取り組みだと思った。

(委員)

- ・教員の研修について聞きたい。教員の授業力向上の取組を行っているとはあるが、何か特別なことをやっているのか？また、研修結果のフォローについても教えて欲しい。

(事務局)

- ・1人の授業を数名の教員が見るなどの授業力向上支援事業を昨年度から行っている。以前はベテランの教員の話の聞いたりすることで、校内研修が活性化してきた。外部に研修に行くことも大切だが、子どもの育ちにどう関わるかという視点で現在の研修体制の見直しを行っている。
- ・モデル校での実施だが、校内研修で子供たちがどう学んでいるか、どういう反応をしたのかというところにポイントを置くことで、若い先生でも発言が増えてくるなど、研修が活性化してきている。
- ・授業を行うバイブルとして活用できるように、校内研究の視点をまとめたハンドブックを作った。当たり前のようだが、原点に立ち返って、子どもたちの育ちを見つめようという事業を行っている。

(事務局)

- ・総合教育センターではライフステージに応じた研修を体系的に行っている。気をつけていることは、ワークショップ的な進め方で、お互いが学び合う研修となること。
- ・フォローについては難しい。どういうふうに活かされているかは課題が多い。参加後のアンケートから数ヵ月後にどういうふうに活かされたのかを追うアンケートも行っているが、個人としては良かったとなるものの、教員集団として広がりにくい。

(委員)

- ・以前聞いた学校の研修方法が素晴らしかった。せっかくいい事例があっても活かされていないのはもったいないと思う。フォローアップがないともったいない。P.21の教育実践の普及という事業もあるので、もっとやればいいと思う。

(事務局)

- ・実はさきほど話題に出てきた「ハンドブック」はその一つである。要請訪問と言って、センターから指導主事を各学校へ派遣し、授業を観察して学校側からの相談に応じてアドバイスを行うといった取組を行っている。その取組で行われた各学校の良い授業を、指導主事の中で話し合っ、好事例としてハンドブックに掲載している。そういった事例のよう

な授業を行いなさいというのではなく、自分たちの授業とくらべてもらうためにハンドブックを作っている。

(座長)

- ・他に3・4については？

(委員)

・コミュニケーション能力の向上はもちろん大事である。コミュニケーション能力を向上させるには自分と相手との相違を認める視点が必要になる。そういった視点を育む取組をしていけたらいいと思う。いじめなどの問題の根底にはお互いの相違を認めることができないことが原因だと思う。

(事務局)

・いただいたご意見は本市でも大事にしているところである。重点施策1で取組んではいるところだが、ご指摘を踏まえてさらに取組んでいきたいと思う。

(座長)

- ・重点施策1～6についてはバラバラではなく、全て関連しあって成り立っている。

(事務局)

・川崎市は昔から、帰国子女・外国人生徒が多いので国際教育研究が積み重なっている。また、外国の日本人学校へ派遣される教員も多く、帰ってくると、そこで得た体験を通して、教育のあり方を研究することも行っている。研究会の中でも違いを認めていこうというのは話題に出てくる。

(座長)

- ・他には？

(委員)

・教職員同士のコミュニケーション能力が低下している気がする。子どもたちにコミュニケーションを教える前に教員同士がしっかり学校の中でコミュニケーションをとることが大事だと思う。昔より今の方が教員同士のつながりが希薄になっている。

【重点施策5・6について】

(委員)

・はるひ野小・中の地域交流センターは、登録された人のみにオープンで、一般にはクローズであるが、虹ヶ丘コミュニティルームはオープン型である。安全性などの問題もあるが、もっとオープン型の交流の場が欲しい。これからの学校施設の開放を考えるときは、クローズ型なのか、オープン型なのか？

(事務局)

・はるひ野小・中は学校を地域の核とすることをコンセプトに、新興住宅地でもあるので、

安全を重視したセキュリティの考え方を導入した。オープン型で地域の方に見守ってもらうのが理想だが、PTAなどからは不安がられるので、非常に悩ましい課題である。

(委員)

- ・市民アカデミーに参加しているが、参加の延べ人数は5,000人を超えているものの、実際は1,400~1,500人程度。参加のきっかけづくりが必要だと思う。市政だよりなどで、参加のきっかけづくりを特集してはどうか。
- ・市民館にもチラシは置いてあるが、館によって整備状況に差がある。
- ・地域でシニアを活用することは重要だが、きっかけがないから、新しく入ってくる人がいない。うまくシニアを使って、ボランティアや相談員として活用してほしい。きっかけを作してほしい。

(委員)

- ・現在は社会教育という言葉がなくなってきたが、社会教育の視点が必要。生涯学習というのは漠然としすぎている。社会問題を学習するような誤解もあるが、社会教育は地域教育という言葉に置き換えて、地域の持つ教育力をどう活用していくか、どうコミュニティを創っていくかということ。その鍵はシニアだと思う。
- ・シニアは自らの経験を伝えるときにうまくいかない。自分の領域だけで伝えようとしてしまって、混線してしまう。一般論を経由して、オリジナルの経験を伝えられる仕組みがあったらいいと思う。伝え方の講座とか研修とかをやってもらいたい。

(委員)

- ・東京都は生涯学習を「地域教育」に置き換えている。地域全体で子どもを育てよう、子どもの育ちは大人の育ちであるとの見解がある。先進例として杉並区がある。杉並区ではシニアが学校にボランティアとして入っているが、専門知識を持っていても、教え方はプロではないので、子どもたちに理解してもらえようような教え方の研修を受けている。大人が子どもに色々な経験を伝ようとすることによって、逆に大人の学習にもなる。機会があったら、大人と子どもの学び合いから、お互いが成長していくという視点をいれてもらいたい。学校教育と生涯学習でもっとうまくお互いに組み合わせることが出来るはず。
- ・東京で雑学大学というのをやっていて、受講者も講師もシニアで、うまく行っている。シニアが蓄えたものを伝えよう工夫してやっている事例もある。市民同士の学び合いが大事である。
- ・市民館でシニアが自分の経験を伝えるノウハウが学べるような講座があったらいいと思う。

【重点施策1~6全体を通して】

(委員)

- ・評価シートもプランもよくできているが、実際はどうなのか。35人学級になったが、先生が足りていない現状や、不登校対策もずっとやってきているけれども、減っていない。
- ・子どもの問題はどこから出てきたのか、おそらく家庭だろう。保護者にも責任はあるが、どうやって変わっていけばいいのかがわからない。保護者を研究することも必要になるのではないかと。そのうえで対策をしていったほうが変わるのかもしれない。
- ・シートに書いてあることは間違いではないが、実際に解決されていない。解決のためには

どうすればいいのか。もう少し違うチェックをしたほうがいいのかもかもしれない。

- ・コミュニティ・スクールをやっている学校とやらなくてもいい学校もあるだろうし、そういった地域性なども考えた取組やチェックが必要である。

(委員)

- ・王禅寺中央小・中の統合の件に関わっていたが、教育委員会としてやりたいことがあるのであれば、リーダーシップをとってしっかりやってほしい。コンセンサスをもってやるという気持ちはわかるが、やり方は色々あるにしても、やりたいことがあるのであればちゃんといつまでに何をやるのかを決めて、進めていってもらいたい。
- ・シートには実施状況だけで、課題や成果が書かれていない。
- ・学校は地域のコミュニティとして重要な場所であると思うが、学校と地域教育会議の関係性というよりも、学校の中に地域教育会議があると思っている。しかし、学校によって考えの差や課題があるのも事実。これからも協力してもらいたい。

(委員)

- ・地域教育会議の委員はしかるべき立場や役割を持っている人が多い。地域の特性・違いを考慮して、社会教育も含めて学校教育とのつながりを見ていく必要があると思う。

(委員)

- ・地域がキーワードだと思った。
- ・町会が抱えている課題と学校の課題は同じ方向を向いている。一緒に紡ぎ出していくことが重要である。

(委員)

- ・学校は地域に支えられて成り立っている。

(座長)

- ・震災の関係で被災された方に話をきいているが、地域の存在が重要であると感じている。地域で支えあって協力することがポイントで、色々なつながりが大事だと感じた。

[協議終了]

今後のスケジュールについて説明、事務連絡後、閉会